

# 日本とこんなに違う！パラグアイの日常生活

¡Hola a todos! ¿Cómo están?

みなさん、こんにちは！

私はJICA海外協力隊としてパラグアイに派遣され、野菜栽培隊員として活動している会田安那です。

今回は、私がパラグアイで生活する中で感じた「日本との違い」について紹介します。

実際に暮らしてみると、日本では当たり前だと思っていたことが、パラグアイではそうではない場面がたくさんあります。

## ①シエスタ（時間・文化の違い）

パラグアイには、「シエスタ」と呼ばれるお昼休憩や休息の文化があります。特に暑い時間帯には、一度お店を閉めて家に帰り、お昼寝をする人も多くいます。

日本のように一日中お店が開いている生活に慣れていた私にとっては、最初はとても驚いた習慣の一つでした。しかし、夏には40℃前後まで気温が上がることもあるパラグアイでは、暑い時間を避けて過ごすことは、環境に合わせた生活の知恵でもあります。

シエスタ文化もあり、パラグアイは日本よりも時間の流れがゆったりしているように感じます。



【写真1：暑さが落ち着いた19時頃に川で涼む様子】

## ② スーパー・お店の営業時間

スーパーや商店の営業時間も、日本とは大きく異なります。

朝早くから開いているお店もあれば、午後には閉まってしまう場所もあります。例えば私の任地では、朝7時から12時まで営業し、シエスタを挟んで14時30分から18時頃まで営業しているお店があります。

また、首都では日曜日や祝日に休業するお店も多く、街全体が少し静かな雰囲気になります。日本のようなコンビニはほとんどありません。そのため、「必要な時に買いに行く」のではなく、「お店が開いている時間に合わせて行動する」という生活スタイルになります。



【写真2：任地の小規模商店(食料品や生活用品を販売)】

### ③ 公共交通機関

公共交通機関も大きな違いの一つです。

パラグアイには電車がなく、主な移動手段はバスです。私の任地には公共バスがないため、個人で運営している乗合バスを利用して、近くの大きな町まで移動します。

パラグアイのバスには、日本にはない特徴があります。それは、バス停やターミナルだけでなく、道路で手を挙げると止まってくれることです。また、降りたい場所を伝えと、バス停やターミナル以外でも降ろしてもらえます。

その分、到着時間が前後することもあります。地域の人々にとってはとても便利な交通手段です。さらに、長距離バスでは売り子さんが乗車してくることがあります。りんごやオレンジ、サンドイッチなどの食べ物を販売する人もいれば、充電器やイヤホンなどを販売する人もいます。初めて見た時は「なぜ今ここで？」と驚きましたが、今ではパラグアイらしい日常の風景の一つだと感じています。



【写真3：首都のバスターミナル】



【写真4：バスからの首都の景色】

## ④ 人との距離がとても近い

パラグアイで生活していて強く感じるのは、人との距離がとても近いことです。

道を歩いていると、知らない人でも「¡Hola!」と声をかけてくれたり、買い物に行くと店員さんや周囲の人と年齢に関係なく世間話をしたりすることがあります。

また、挨拶の仕方にも日本との違いがあります。パラグアイでは、女性同士は頬を軽く合わせて挨拶をすることが一般的です。男性と女性の間でも、友人や知人など親しい間柄では同様の挨拶がよく見られますが、初対面やフォーマルな場面では基本的に握手を交わします。また、男性同士は握手が一般的ですが、親しい間柄ではハグをすることもあります。私も最初は緊張しましたが、今ではすっかり慣れました。

さらに、パラグアイでは年齢に関係なく名前呼び合うことが多く、地域の方々や子どもたちからは「アンナ!」や「アニータ（愛称）」と呼ばれています。日本のように名字や敬称を使う場面が少ないため、人との距離がより近く感じられます。

また、地域の行事や誕生日会に招待されることも多く、家族や友人とのつながりをとても大切にしている文化があります。私自身も地域の方々に食事へ誘っていただいたり、困った時に助けてもらったりする中で、人の温かさを感じる場面がたくさんありました。



【写真5：教会のイベントのお手伝いとして参加】



【写真6：畑のメンバーで友情の日のお祝い】

## ⑤ 雨・停電・学校の休み

また、自然環境による影響も、パラグアイでの生活に大きく関わっています。

特に地方では、舗装された道ではなく、メイン道路以外は土道が多くあります。強い雨が降ると道路状況が悪くなり、場所によっては通行が難しくなることがあります。

そのため、私の任地では雨が降ると学校が休みになることがあります。

遠くに住んでいても車があれば問題ありませんが、車は高価なため、ここではバイクが主な交通手段です。そのため、安全面を考慮して休校になることがあります。

また、雨が降ると停電が起こることもあります。

私の家では地下水をポンプでくみ上げて利用しているため、停電すると水も止まってしまいます。そのため、雨が強く降りそうな日は、停電する可能性を考えて早めにシャワーを浴びたり、スマートフォンの充電を確認したり、飲み水を準備したりしています。

これまで何度も停電を経験しましたが、過去最長は23時間でした。



【写真7：雨により車両が立ち往生した様子】



【写真8：馬で移動する人たち】

日本では当たり前だと思っていた便利な生活も、場所が変われば当たり前ではありません。パラグアイでの生活を通して、日本の暮らしの便利さや、環境に合わせて生活する知恵の大切さを改めて感じています。

次回は、「パラグアイでの私の活動」をテーマに、現地での様子について紹介したいと思います。

¡Chao chao! 🙌